

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「ソーシャル・キャピタル創出とヘルスケアデータ一元化による地域包括ケアシステム研究拠点の形成」(KAGUYA プロジェクト)

平成 28 年度研究成果報告書

1. 研究目標

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

2. 平成 28 年度研究計画

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
 - (1) 40-64 歳の壮年期におけるベースライン調査の実施、高齢者ベースライン調査の分析
 - (2) 壮年期ベースライン調査を実施し、高齢者調査とともに多角的に分析し、実態を把握
 - (3) 医療費や介護保険費、新規要介護認定率、認知症者数等の把握、分析も同時に行い、広陵町と協力・連携し、地域における対処すべき課題を抽出
 - (4) 調査結果について、GIS (地理情報システム) を用いてマッピングすることで、介入地域を選定
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
 - (1) 健康・認知症アプリケーションの実用性の確認およびそれらを用いたパイロットスタディ
 - (2) 介入地域に対する認知症カフェのプログラム内容の検討・立案(仮)、認知症の評価尺度の検討
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成
 - (1) 受講生への知識確認および健康・認知症等への認識の変化などの調査を実施
 - (2) 認知症サポーターの公募・養成講座を 3 回、6 箇所で開催
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
 - (1) 住民リーダーとの連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。

3. 研究成果の概要

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
 - (1) 40-64 歳の壮年期におけるベースライン調査の実施、高齢者ベースライン調査の分析
 - ① 40 歳～64 歳の壮年期を対象としたベースライン調査を 2016 年 11 月～12 月にかけて行った。広陵町在住 40～64 歳の住民の約半数である 6,000 人を対象に郵送にて調査票を配布し、2,249 人から返送があった。データは、平成 28 年度末までに入力を完了した。
 - ② 昨年に引き続き、壮年期世代を対象に行なったアンケート調査回答結果をデータベースに統合した。
 - ③ ベースライン調査として行いデータベース化した高齢者アンケート回答結果および壮年期アンケート回答結果の可視化および分析方法について検討した。
 - ④ システムの外部設計を行い、プロトタイプの開発に着手した。

- ⑤ 高齢者ベースライン調査の解析を進め、学会発表を行った。
- (2) 壮年期ベースライン調査を実施し、高齢者調査とともに多角的に分析し、実態を把握
壮年期ベースライン調査については、平成 28 年度は入力作業までになっており、高齢者調査との統合は至っていない。次年度の課題とする。
- (3) 医療費や介護保険費、新規要介護認定率、認知症者数等の把握、分析も同時に行い、広陵町と協力・連携し、地域における対処すべき課題を抽出
上記分析までは至らなかったが、計画を進めるため個人情報保護法改正に伴う検討を行った。
 - ① 平成 29 年度に個人情報保護法が改正されるのをうけ、健康データの一元化方法について再度検討した。
 - ② 個人情報保護法改正や企業での対応動向などを調査した。
 - ③ 個人情報保護とデータベースに関して、情報処理学会第 19 回 CLE 研究会にて有識者との意見交換を行った。
 - ④ 検討事項となっている今後の広陵町で保有する健康データの研究利用について、会議を持ち協議した。
 - ⑤ 継続して協議を行う場として、今後、実務担当者との定例会議を立ち上げ、個人情報保護審査会に向けて慎重に進めていくことで合意した。
- (4) 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングすることで、介入地域を選定
壮年期ベースライン調査の時間的制約があり、介入地域の選定作業は次年度の課題とする。

2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびアプリケーション開発

- (1) 健康・認知症アプリケーションの実用性の確認およびそれらを用いたパイロットスタディ
 - ① 平成 28 年度は、アプリケーションの内容の素案を広陵町地域包括支援センター職員と考案し、またアプリ開発業者の選定および打ち合わせのための会議を行った。そして、アプリケーションの素案の作成を行った。
 - ② 先行文献をレビューし、認知機能のスクリーニング方法および開発方法について検討した。
 - ③ 認知機能評価アプリケーション開発仕様書を策定し、発注先業者を選定のうえプロトタイプを開発した。
 - ④ 作成したアプリケーションの試用について、ベースライン調査結果を分析し、広陵町の委託事業である認知症カフェや老人クラブなどとの関係性作りを行うことでフィールドの確保を行った。しかし、パイロットスタディになどの実用性の検証については、本務との教務調整が進まず研究時間の確保ができなかったため、次年度持ち越しとなった。
- (2) 介入地域に対する認知症カフェのプログラム内容の検討・立案(仮)、認知症の評価尺度の検討
 - ① 認知症カフェ(ひまわりカフェ)の活動支援
 - ・7月から15人のTASK学生ボランティアのコーディネートを行い、1回につき3人ずつの学生配置を支援した。また、家族会では老年看護学教員のミニ講義や介護相談の場の提供、活動内容について示唆した。学生に対しては、前後の認知症に対するイメージについて質問紙調査を

予定している。

- ・10月12日には、RUN Tomorrow(ラン伴)に看護医療学科4年生5人の参加をコーディネートし、広陵町職員とともに認知症の啓発を支援した。

② 第二回シニアキャンパスでの認知症企画の実施

- ・2月20日に本学にて実施された町との連携イベント「シニアキャンパス」における認知症企画にTASK学生ボランティア・教員が参加し、認知～症の啓発に関する講義・オレンジロバづくり・もの忘れチェックを一般参加者と共に実施した。12人の参加があった。

③ 認知症カフェ実施者との意見交換会

- ・2月19日のひまわりカフェ時に、大和園職員と本学の教員2人とで今年度の振り返りと次年度にむけて意見交換会を実施した。

④ 定例会議の実施

- ・7月21日から3月17日までの期間、計9回の定例会議をさわやかホール1階会議室にて実施した。検討内容としては、ベースライン調査のデータのフィードバックおよび学会発表時の共著(内容確認)、得られたデータを新規事業に結びつくような意見交換、認知症カフェの企画に関する意見交換を実施した。そのうち2回は、KEEP班と合同会議として実施した。

⑤ 認知症アプリの開発準備

- ・先行文献をレビューし、開発方法について再度検討した。
- ・広陵町職員とともに、もの忘れチェック機能のアプリケーションのアイテムや表現方法について、意見交換を実施した。
- ・開発仕様書を策定し、発注業者を選定のうえプロトタイプを開発した。

3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成

(1) 受講生への知識確認および健康・認知症等への認識の変化などの調査を実施

① 介護予防リーダー養成講座の実施

- ・2月21日から3月21日までの期間、計11回の介護予防リーダー養成講座を本学にて実施した。養成講座は地域の介護予防を推進する上で必要とされる基礎知識や住民主体の運動指導に必要な知識に関する座学と運動指導の実技、グループワークを中心としたカリキュラムで構成した。講座最終日には認定試験を実施し、KEEP第三期生となる16名に対して養成講座修了証を授与した。また介護予防リーダー活動が自身の健康度に与える影響を調査するためにベースラインデータとしての体力評価を実施した。町の介護予防リーダーとしての認定は4月10日に認定書が授与される予定である。

② 介護予防リーダー (KEEP) 活動の支援

- ・前年度に養成されたKEEP二期生の方々に対するフォローアップ講座として、基本の運動メニューとなる「KEEP基本プログラム」の講習を実施した。また代表者の方々で定期開催されている運営会議へ参加し、笹川スポーツ財団主催の全国イベント「チャレンジデー」におけるKEEP参加コーナーの企画を町との連携で考案し、町内ショッピングセンター内など複数箇所にてイベント参加を行った (KEEP活動の広報および住民向け体力測定、運動コーナー)。

- ・KEEPメンバーのスキルアップを目的にメンバー自身が組み立てる運動プログラムの企画に着手し、運動種目・目的・具体的指導方法などに関して現在検討中である。来年度はKEEPオリジナル体操としてDVDコンテンツなどの共同開発を予定している。

③ 第二回シニアキャンパスでの体力測定企画の実施

- ・2月20日に本学にて実施された町との連携イベント「シニアキャンパス」における体力測定企画にKEEPメンバーが参加し、フレイルに関する講座および体力測定を一般参加者およびTASKと共に実施した。

④ TASKとの合同勉強会・意見交換会

- ・シニアキャンパスと同日、KEEPメンバーと本学の健康支援学生チームTASKによる健康維持に関するテーマで意見交換会を実施した。

(2) 認知症サポーターの公募・養成講座を3回、6箇所で開催

① 認知症サポーターの公募・養成講座については、TASK学生に対して1回と学科内の看護学生に対して1回、広陵町の商業スーパーで1回の合計3回実施した。

② 広陵町内の認知症カフェ「ひまわりカフェ」を学生・教員ともに7月から毎月6回参加しているがサポーター養成としてではなく、ボランティア活動として参加しているため、実施には至らなかった。次年度は、TASK学生ボランティアに対して、活動前にサポーターとしての講習会の受講を計画する予定である。

4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

(1) 住民リーダーとの連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。

① TASKの学生募集、定期活動の継続

- ・TASKの募集を行い、昨年よりも増加し、現在5学科約100名の学生が登録されている。
- ・勉強会 計10回

勉強会	日付	内容
1	2016/4/20	心肺蘇生
2	2016/5/26	体力測定
3	2016/6/11	ウィメンズヘルスとキャリアデザイン
4	2016/6/27	ヘモグロビン、骨密度、体組成の測定の仕方
5	2016/7/6	たのしいストレッチをつくろう
6	2016/9/28	日頃の食事を見直して少しでも栄養の知識を増やしてもらおう
7	2016/10/27	高齢者体験
8	2016/11/22	メディカルラリー
9	2016/12/16	運動指導
10	2017/3/22	認知症について、認知症カフェの意義と役割

② 小規模での実践活動

- ・昨年よりも広陵町内での活動回数の増加および他のプロジェクト（KEEP、認知症班）との共同事業が増加した。
- ・地域実践活動 計 10 回

勉強会	日付	内容
1	2016/5/25	広陵町チャレンジデー2016(KEEP と共同)
2	2016/10/15	広陵町身体体力測定会
3	2016/10/23	畿央祭ウエルカムキャンパス
4	2016/11/2	認知症カフェ(認知症班と共同)
5	2016/12/18	認知症カフェ(認知症班と共同)
6	2017/1/15	認知症カフェ(認知症班と共同)
7	2017/2/19	認知症カフェ(認知症班と共同)
8	2017/2/19	広陵町西小学校区地域防災訓練
9	2017/2/20	第2回シニアキャンパス(KEEP と共同)
10	2017/3/16	介護予防リーダー養成講座(KEEP と共同)

③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

- ・TASK の各学科の代表者（5 名）から活動の振り返り、TASK 活動についての実践学習の教育効果等についてインタビューを行った。
- ・継続的に情報収集及びレビューを行っている。

4. 平成 29 年度研究計画

(1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究

- ① 壮年期ベースライン調査のデータクリーニング及び高齢者ベースライン調査及び壮年期ベースライン調査の統合を行う。
- ② ベースライン調査（高齢者、壮年期、両者の統合）の解析し、実態を把握する。
- ③ 調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングを行う。
- ④ ベースライン調査と町が保有するデータの一元化を目指した協議を町と継続的に行う。

(2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発

- ① 広陵町地域包括支援センター職員とともに定例会議を開催し、情報の共有および意見交換を行う。
- ② 学生とともに認知症カフェに参画し、フィールド確保を継続する。
- ③ 広陵町内の認知症カフェや老人クラブにおいて、開発したアプリケーションの有効性について、データ収集および得られたデータを分析する。
- ④ 認知症ケアに関する医師や CNS・DCN などの専門家にアプリケーションの内容について意見を求め、内容妥当性の確保とともに質問肢を精練する。

- ⑤ 認知症アプリケーションにふさわしい名前を募集し、命名する。
 - ⑥ 前年度、投稿した研究成果について各学会、論文等で成果を公表する。
 - ⑦ 研究会や学会等に参加し、最新の知見を得る。
- (3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
- ① 介護予防リーダーの継続的育成と有効性に関する検証：昨年度に引き続き介護予防リーダー養成講座は実施される方向性で検討中である。また活動後一定期間を経た段階で体力測定や活動に対する意識調査を実施していく予定である。意識調査においては活動による主観的健康感の変化や活動に対する自己効力感などを聴取する予定である。
- (4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証
- 学生チームによる小規模での実践活動
- ① TASK の学生募集、定期活動の継続
 - ② 小規模での実践活動の継続
 - ・KEEP、認知症班との連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。
 - ③ 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
 - ・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の事前評価を実施する。
 - ・文献レビューから教育効果が得られやすい研修内容・方法論を検討する。
 - ④ 高齢者調査、壮年期調査から若者との交流等の健康関連指標との関係について検討する。

5. 学会発表

- ① 宮崎誠，山崎尚美，高取克彦，松本大輔，文鐘聲．地域包括ケアシステム研究のため のヘルスケア統合データベースの構築．第 15 回情報科学技術フォーラム，2016 年 9 月，富山市
- ② 文鐘聲，松本大輔．高齢者のソーシャル・キャピタルと健康—KAGUYA プロジェクトベースライン調査．第 75 回日本公衆衛生学会，2016 年 10 月，大阪市
- ③ 文鐘聲．地域在住高齢者のソーシャル・キャピタルと抑うつ—KAGUYA プロジェクトベースライン調査—．第 27 回日本健康医学会，2016 年 11 月，東京都
- ④ 文鐘聲，松本大輔，高取克彦，山崎尚美，宮崎誠．地域在住高齢者のソーシャル・キャピタルと主観的健康感—KAGUYA プロジェクトベースライン調査．第 27 回日本疫学会，2017 年 1 月，山梨市
- ⑤ 高取克彦，松本大輔，宮崎誠，山崎尚美，文鐘聲．地域高齢者における主観的健康感と自覚的年齢及び既往疾患との関係—KAGUYA プロジェクト—．第 2 回日本予防理学療法学会サテライト集会，2017 年 3 月，名古屋市

6. その他

- ① 2017/2/20 (月)「畿央大学シニアキャンパス シニア世代のためのオープンカレッジ~地域のつながりと健康~」 @畿央大学 を開催した。

地域包括支援センターと共催。

KAGUYA プロジェクト進捗報告会、認知症企画「オレンジ喫茶」、体力測定企画「サルコペニア、フレイルを予防しよう！」が開かれた。

- ② 2017.3.30 KAGUYA プロジェクト Web サイトを公開

- ③ 学内教職員による会議 毎月 1 回、計 12 回開催 (うち、コア会議 11 回、拡大会議 1 回)

添付資料

1. 畿央大学シニアキャンパスチラシ
2. 壮年期ベースライン調査 調査票
3. 大学オフィシャルサイト・公式ブログ記事
4. 学会発表抄録